



<掲載記事>

- 岩瀬所長研究功労賞受賞（6/23）
- ニンクテンパリング乾燥技術研修会（7/15）
- 東京農工大小松准教授セミナー（7/22）
- ナガイモ栽培技術研修会（8/4）
- 全日本野菜品種審査会（8/11）
- イチゴ花芽研究技術研修会（8/11）

岩瀬所長、研究功労者表彰受賞

平成27年度全国農業関係試験場
所長会議総会（27年6月23日に東
京都港区赤坂三会堂ビルで開催）
後の表彰式において、当研究所の
岩瀬利己所長が、研究功労者賞を
受賞しました。野菜栽培の研究開
発に関する長年の貢献が高く評価
されたものです。



ニンクテンパリング乾燥技術研修会

7月15日、当研究所において、県関係機関、JA全農あおもり、各農協、市場関係者ら計49名の参加を得て、ニンクテンパリング乾燥技術研修会が開催されました。県農林水産政策課の「水田農業の革新技術緊急普及事業」では、ニンククの乾燥技術の実証と地域の実状に応じた指導を行うこととしており、今回はより技術の理解を深めていただくための指導者向けの研修会を行いました。昨年まで野菜研究所に勤務していた農林総合研究所庭田総括研究管理員が、テンパリング乾燥技術について概説し、農林総合研究所伊藤研究員が煮え症状の発生要因について説明しました。その後、テンパリング乾燥を行っている研究所の乾燥ハウスにおいて、栽培部今主任研究員が乾燥技術の実際について、説明しました。

東京農工大学小松准教授セミナー

7月22日、ウイルス探索のため、当県を訪れていた東京農工大学小松准教授による野菜研究所職員向けの「基礎植物ウイルス学講座」が開催された。教授からは懇切丁寧にウイルス学研究の現状を説明いただいた。お話がとてもわかりやすく、学生に戻ったような気分に入ることができました。その後、ウイルスに限らず、大学を始めとした研究現場の様子など職員も普段接することのできないような情報交換を盛んに行い、稔りのある有意義な時間を過ごすことができました。翌日、准教授は病虫部の山下総括研究管理員が同行し、ウイルス収集に出かけました。

ながいも栽培技術研修会

8月4日、当研究所において開催され、県、JA全農あおもり、各農協から計36名の参加がありました。最初に、作況圃場の地上部や掘り取ったいもを見ながら、生育状況と今後の管理について検討しました。その後、会議室において、全農の今年度取り組んでいる試験の実施状況、北海道視察報告について紹介しました。午後から、農産園芸課の事業である若手育成塾の実施ほ場を巡回し、各県民局の担当者から説明を受けました。



夏ダイコンの全日本野菜品種審査会

8月11日、当研究所において、日本種苗協会青森県支部や全国の種苗会社など、計49名の参加を得て、第66回全日本野菜品種審査会（ダイコン夏マルチ栽培）が開催されました。31品種の中から、6月中旬に播種し、8月盆前の収穫に適した品種を審査しました。今年のような暑さの中でも、形状が揃い、病気や虫害、赤心の発生のみられない高品質な品種もみられました。当日は天気予報があいにくと外れて、審査中晴天で、ガラス温室内でダイコンを審査された審査員の方々もご苦労様でしたが、収穫物を洗い、温室内に並びそろえた農場担当や職員も汗だくでした。



イチゴの花芽検鏡技術研修会

8月11日、当研究所において、各地域県民局農業普及振興室職員計8名の参加を得て、イチゴ花芽検鏡技術研修会が開催されました。

農林総合研究所伊藤研究員、栽培部町田研究員が講師となり、講義と実習を行いました。イチゴの促成栽培においては、花芽分化を確認してから定植することが、その後の生育や収穫量の決め手となるため、キヌ針を加工した専用の道具を使って、みんな真剣に細かな作業に取り組んでいました。



人の動き

○ 転出者（平成27年3月31日付）

職名	氏名	新所属・職
総括研究管理員	庭田 英子	農林総合研究所藤坂稲作部 総括研究管理員
品種開発部長	柳野 利哉	青森県病害虫防除所 主幹
主任研究員	古川 尊仁	上北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室 主幹
研究員	伊藤 篤史	農林総合研究所 研究員
研究員	落合 祐介	農林総合研究所藤坂稲作部 研究員
技能専門員	丹内 とも	退職

○ 転入者・昇任者（平成27年4月1日付）

職名	氏名	旧所属・職
研究管理監	西澤登志樹	農林総合研究所 総括研究管理員
品種開発部長	細田 洋一	野菜研究所 研究管理員
主幹	工藤 達哉	野菜研究所・農産物加工研究所 主査
主任研究員	鈴木 聡	農産物加工研究所 主任研究員
主任研究員	今 智穂美	農林総合研究所藤坂稲作部 研究員
研究員	町田 創	農林総合研究所 研究員
研究員	青山 理絵	新採用